

科目番号	50006	分類	共通科目		履修者	看護学研究科(共通科目)		学年	1
科目名	ラボラトリー・メソッド特論 (Advanced Course of Laboratory Method)							1	
								配当シスター 前期	
担当者	○小宇田 智子・今井 秀樹・酒井 一夫			区分	選択	単位	2	時間数	30
授業の概要および目標							学位授与の方針との関連		
<b>【概要・目標】</b> ヒトの健康像および病態を理解する上で必要な医学・生物学の知識を得るための知識および手法を教授する。臨床現場で使われている手法や最新の科学研究で使われている手法を用い、個体、組織、遺伝子および分子レベルでの生命現象について理解することを目標とする。							○	1. 看護学の継承・発展を担うための研究能力 2. 臨床現場で「つかえる」エビデンスを「つくり」「つたえる」ことができる能力 3. 臨床現場での実践をとりながら看護基礎教育を担うことができる能力 4. 看護管理者として、臨床現場においてリーダーシップをとりながら、エビデンスに基づく看護マネジメントができる能力 5. 実践を行いながら学部学生の臨地実習を指導できる能力	
<b>授 業 計 画</b>									
回	内 容							担当教員	
第1・2回	解剖学(ラット解剖)							小宇田	
第3・4回	病理学(正常および病理組織の作成・観察)							小宇田	
第5・6回	遺伝学(染色体の観察)							酒井	
第7~9回	分子生物学(リアルタイムPCR法による遺伝子定量)							小宇田	
第10・11回	細菌学(グラム染色)							小宇田	
第12・13回	臨床化学(ヘモグロビン濃度、トリグリセライド濃度の測定)							今井 小宇田	
第14・15回	放射線測定							酒井	
事前・事後学習	事前学習:関連する授業内容を復習し、必要な知識・技術を確認し臨むこと。 事後学習:自己の課題を踏まえ、授業で得た知識・技術の定着に向け復習すること。 単位と時間数に応じた学習時間(学生便覧参照)を参考に組み込むこと。								
評価の方法	出席・参加状況によって評価する。また適宜レポートの提出を求めることがある。 フィードバックは適宜行う。								
参考図書・資料等	適宜、紹介する。								
備 考	オフィスアワーについては、学生便覧を参照し、教員と日程調整をする。								